

地域の方々に 吉田川河道掘削工事の進捗状況等をご説明します

～25mプール約500杯分 掘ります～

現在、北上川下流河川事務所では令和元年台風19号による被災を踏まえ、吉田川の中の土砂を掘削し、川の断面積を大きくすることで、水を流れやすくする工事を行っています。

この度、下記内容にて、本年度の工事状況を地元住民の方々や関係機関の方々にご紹介するため、鶴田川沿岸土地改良区と共同で『吉田川河道掘削工事説明会』を開催いたします。

本年度は25mプール約500杯分^{*}(約30万m³)を掘削する予定であり、大量の土砂掘削を効率良く進めるため活用しているICT機器についても現地でご紹介いたします。

※日水連25m公認8コースプールを想定

記

1 日時・場所

- 令和4年12月21日(水) 10:00～
- 志田谷地防災センター(別紙 位置図を参照ください)

2 実施内容(予定)

- 工事概要及び進捗状況の説明・視察、意見交換
- ICT機器を活用した現場の見える化、作業効率化の事例紹介 他

3 取材について

- 説明会は公開にて行います。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、傍聴は報道関係者に限らせていただきます。取材を希望される方は、**別紙参加申込書に記入の上、12月20日(火)16時までにメール又はFAXにてご連絡ください。**
- なお、取材配置にあたって撮影箇所や入場人数の調整などをお願いする場合がありますのであらかじめご了承下さい。
- 取材申し込み者には、当日現場で実演する**ICT機器のサンプル動画提供が可能です。提供希望される場合には、申し込み時にその旨記載願います。**

<発表記者会>

石巻記者クラブ、古川記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所



住所: 宮城県石巻市蛇田字新下沼 80

電話: 0225-95-0194(代表)

副所長(企画)

たかだ ひろほ

高田 浩穂 (内線205)、

副所長(事業計画)

しもだ いちろう

下田 一郎 (内線206)

事業対策課長

いとう りゅういち

伊藤 龍一 (内線321)



鶴田川沿岸土地改良区

住所: 宮城県大崎市鹿島台広長字内ノ浦 104 番地 1

電話: 0229-56-2293

理事長

ちば さかえ

千葉 榮

【新型コロナウイルス感染拡大防止に関する留意事項】

- ・発熱、風邪症状、咳、体調不良等の方は参加をご遠慮ください。
- ・参加中のマスク着用など、参加される方ご自身で感染予防対策をお願いします。
- ・咳、くしゃみなどの症状がある方は必ずマスクを着用ください。
- ・うがい、手洗いの励行をお願いいたします。
- ・参加者への感染防止を考慮し事務局スタッフはマスク着用等でご案内させていただきます。
- ・当日ご参加される方、全員の記名をお願いします。

参加申込書

送信先 北上川下流河川事務所 事業対策課 あて

メールアドレス thr-742chosa01@mlit.go.jp

FAX 0225-94-9857

ふりがな（必須）	
お名前（必須）	
ご所属(会社名)（必須）	
ご連絡先(TEL/FAX/メール)（必須）	TEL FAX メールアドレス
サンプル動画の提供希望	<input type="checkbox"/> 有、 <input type="checkbox"/> 無
連絡事項欄	

※送り状は不要です。本紙のみをそのままメールまたはFAXしてください。なお、お手数ではございますが、受信確認のため下記までご連絡ください。

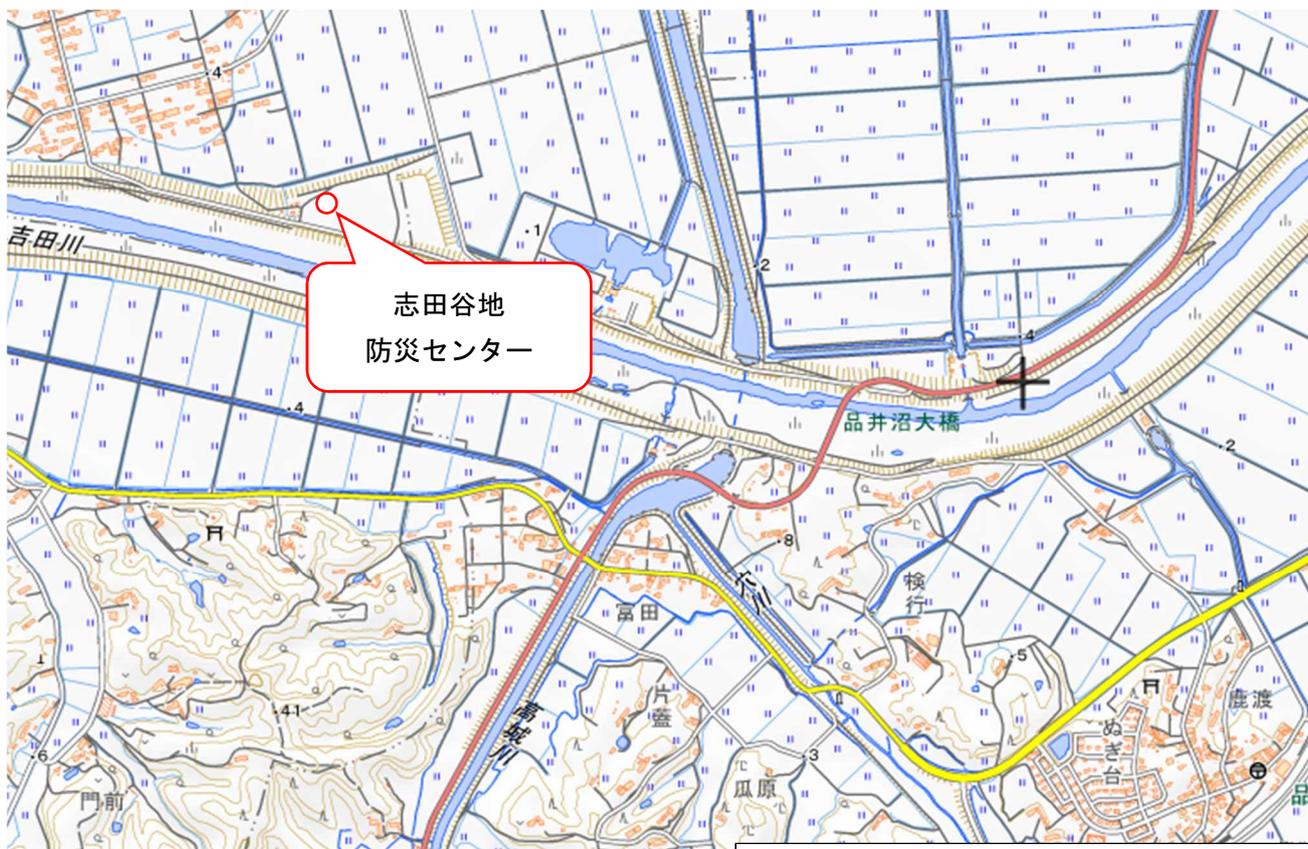
【受信確認先】

北上川下流河川事務所

TEL 0225-94-9793(直通)

※12月20日(火)16時までにご連絡をお願いします

【会場】志田谷地防災センター（大崎市鹿島台大迫字川北）



出典：地理院地図に会場位置を追記して掲載

※志田谷地防災センターに集合後、事業概要説明に続き、現場視察に移動します。
移動に際しては、北上川河川事務所車両が先導いたします。
志田谷地防災センター出発後、大郷大橋と二子屋橋を經由した後、出発地に戻ります。



出典：地理院地図に会場位置を追記して掲載

吉田川河道掘削工事の概要

- 令和元年台風19号対策として、護岸や河道掘削などの対策を実施中
- 本年度は、25mプール約500個分（約30万m³）の河道掘削を予定

直轄河川大規模災害関連事業

決壊、欠損、法崩れ、漏水、低水護岸他

護岸被災箇所(右岸30.5k付近)



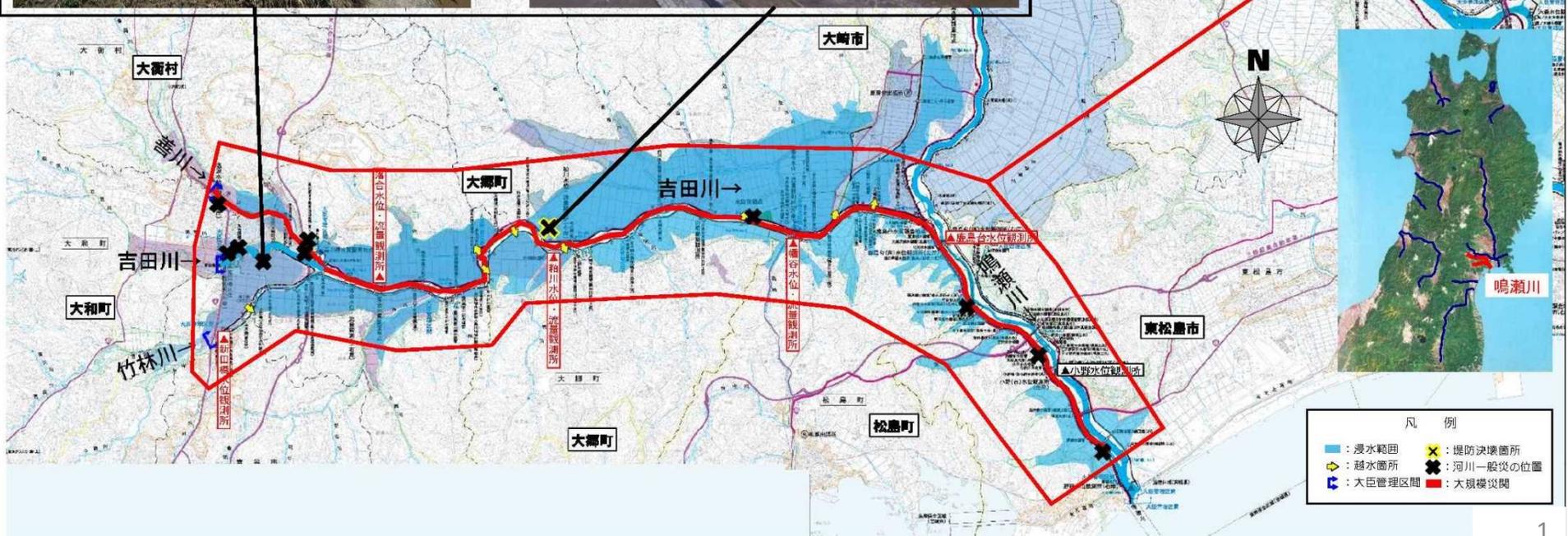
堤防決壊箇所(左岸20.9k付近)



大規模災害関連事業 申請内容

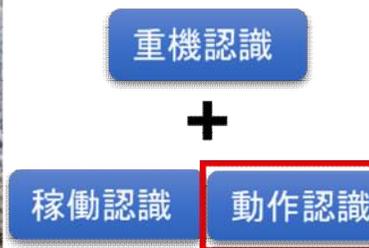
直轄河川大規模災害関連事業

河道掘削、堤防整備(引堤)



ICT機器活用状況（AIカメラによる重機の動態分析）

- 河道掘削で稼働している重機をAIカメラで撮影し、稼働状況を分析
- 掘削重機の「待ち状況」や、ダンプの「道路汚損対策状況」を判別し、待機時間縮小や作業効率の最適化、道路汚損対策の徹底などに活用する



AIカメラ



AIによる重機の稼働状況分析(動態分析)

掘削機の稼働状況：稼働時間（■）非稼働時間（■）
掘削機の動作状況：待機（■）積込（■）掘削（■）



現場での監視・作業計画見直し 状況



ダンプの運行管理・道路汚損対策徹底等に活用

ICT機器活用状況（元地形と掘削後地形のAR表示による比較）

- ドローンで航空レーザ測量を行い、元地形と掘削後の地形をARで表示
- 河道掘削により、どの程度川幅が広がり、深さが増したか体験可能

AR: Augmented Reality (拡張現実)

